

令和5年度自己評価表

(愛媛県立内子高等学校・本校)

学校番号 (33)

教育方針	<p>1 知力・気力・体力の充実と共生の心を育む教育を推進する。</p> <p>2 自ら学び、自ら考え、自ら表現できる生徒を育成する。</p> <p>3 社会に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>重点努力目標</p> <p>生徒一人一人の確かな学力の向上と心身の鍛錬に取り組み、人格の陶冶を図る。</p> <p>—自己肯定感を高め、 自ら考え行動できる生徒の育成—</p>	重点目標	<p>1 育てたい生徒像</p> <p>(1) 自分が自分であることに誇りを持ち、たくましく困難に立ち向かう生徒を育てる。</p> <p>(2) 確かな学力を身に付け、進路実現のために主体的に取り組む生徒を育てる。</p> <p>(3) 常に向上心を持ち、目標に向かって粘り強く努力する生徒を育てる。</p> <p>(4) 自他の生命と健康を大切にし、人権意識の高い生徒を育てる。</p> <p>(5) 気持ちの良い挨拶ができ、一生懸命に清掃ができる生徒を育てる。</p> <p>2 作りたい学校像</p> <p>(1) 安全・安心な校内の体制と教育環境の整備をし、信頼される学校運営を行う。</p> <p>(2) 教職員の資質・能力の向上と、学校組織の活性化を図る。</p> <p>(3) 地域との結び付きを大切にし、地域から愛される学校を作る。</p>
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	円滑な組織運営	・報告・連絡・相談を徹底し、教職員が団結して業務に取り組むとともに、健康で楽しく業務を行えるよう更なる働き方改革を推進する。	B	・教職員間の連携を密にし、学校行事や地域行事、部活動を通じて学校の魅力化に努めた。今後も、PTA総会・体育祭・文化祭等において、PTAと学校が連携を深めながら取り組んでいきたい。	・学校行事や地域行事等において、本校と分校が連携した取組を実践したい。また、連携して取り組む中で業務内容を明確にし、教職員一人一人の業務改善、負担軽減に努めたい。 ・「総合的な探究の時間」の中で、校外で学習する機会を増やし、地域の課題発見、課題解決に向けた学習を積極的に行う。
	事務の適切な執行	・連絡を密にし、適正な事務処理を実践する。	B	・朝礼や電子掲示板等を活用して適正な事務処理が実施できた。	・適正な事務処理の共通理解に努め、電子掲示板等を活用し更に円滑な処理をしていく。
		・安全安心な教育環境の整備、資源・経費の節約に努める。	B	・物価の高騰により予算が逼迫したが、物品購入等の経費の節約に努め、予算内に収めることができた。	・節電や節水等、資源の有効活用に積極的に取り組んでいく。 ・日々の点検により安全への意識を高め、更なる環境整備に努める。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
P T A 活 動	開かれた学校づくりと P T A 活動の充実	・開かれた学校づくりを目指し、各月初めに生徒に行事予定表を配布し、どこでも閲覧できるように、ホームページにも年間行事予定表を掲載する。	B	・行事予定に関しては例年どおり、毎月末に余裕を持って配布することができた。 ・ホームページにあらかじめ年間行事案を掲載することで、部活動や行事等の計画を立てやすくすることができた。	・今後とも保護者との関係を深め、開かれた学校づくりを意識した行事予定の作成・配布を心掛けたい。
		・年に2回、P T A 会報を発行し、P T A 活動と共に学校生活や教員紹介をし、学校と保護者とのつながりを強めるとともに、地域との理解を図る。	B	・P T A 会報については、学校活動の様子や大会等の様子を盛り込むことによって、保護者の方々に開かれた学校を感じていただくことができた。	・P T A 会報等を通して、保護者や地域の方々に各大会の結果報告等、本校の教育活動の様子を今後もしっかりと発信していきたい。
		・文化祭、体育祭バザー等で会員相互の親睦を図り、更に円滑な人間関係の構築と信頼関係の強化を図る。	B	・文化祭や体育祭では、多くの保護者の方々にホットドッグやペットボトルジュースの販売に御協力いただき、大変有意義な活動にすることができた。	・P T A 三役の方々の声を基に、多くの方々から意見をいただきながら、雰囲気よく無理なく今後もP T A 活動を実施していきたい。
学 習 指 導	家庭学習の充実	・各教科で課題の出し方を工夫する。	B	・授業中の指示に加え、配信による課題の提示等は定着してきた。	・オンラインの活用を今後も継続していきたい。 ・家庭学習の習慣化につながる課題の出し方を考えていきたい。
		・自主学習1日3時間以上を目指す。 A:180分以上 B:180分未満 C:120分未満 D:60分未満 E:0分	C	・家庭学習を3時間以上確保できている生徒が少ない。特に1、2年生が少ない。 1年生は平均93分 2年生は平均102分	・家庭学習の重要性について1年生の早期に、各教科の授業、ホームルーム活動、学年集会など様々な場面で指導していく。また、2年生についても、継続して粘り強く指導していく。
	教科指導の充実	・考察や討論など生徒がより主体的・対話的な活動ができる授業改善を目指し、学習意欲を向上させる。	B	・電子黒板の活用(グラフや動画の提示等)によって、学習意欲を持たせる工夫が行われ、主体的・対話的で深い学びにつながった。	・学習に主体的に取り組む姿勢が最も大切であり、その必要性を感じさせる授業展開を目指していきたい。
・生徒個々の到達度を把握し、「分かる授業」と「鍛える授業」を実践する。		B	・小テストの実施や提出物のこまめな確認等によって、生徒の実態に応じた「分かる授業」がおおむね行われた。	・「鍛える授業」に関しては、全体の学力底上げと同時に、習熟度の高い生徒を更に鍛えることができるように授業を工夫したい。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
生徒指導	規範意識の高揚	・高校生としての節度ある言動を取り、規則を遵守するように、家庭・地域・関係機関との連携を深める。	B	・全体的には節度ある言動が取れていると思うが、まだまだ稚拙な言動を取る者もいる。	・成人年齢が18歳になったことにより、より一層節度ある言動が取れるように、日頃から注意喚起していきたい。
		・問題行動の防止・早期発見に努め、特別指導0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	B	・残念ながら、問題行動が2件あった。担任を中心に細かな指導を行いながら、全校生徒に注意喚起を行った。	・生徒の様子や、生徒や地域からの情報、SNSによる投稿など、あらゆる情報に敏感に対応し、問題行動の早期発見に努めた。
		・楽しい学校生活を送れるように、いじめ0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	A	・0件ではあるが、いじめにつながりそうな事例もある。SNSの使い方次第では、今後いつ起こってもおかしくない状況である。	・生徒会を中心に、各行事が生徒主体の運営により、楽しく活動できるように工夫し、楽しい学校生活を送れるようにする。
	基本的生活習慣の確立	・各学年1か年皆勤者60%以上を目指す。 A:60%以上 B:59~50% C:49~40% D:39~30% E:30%未満	D	・全学年目標を達成できず、皆勤率は、 1年生:36.4%(1月末現在) 2年生:28.1%(1月末現在) 3年生:43.5%(1月末現在) であった。	・基本的な生活習慣の大切さについて、生徒に向けて集会や行事の時間を活用して指導し、規則正しい一日の過ごし方を身に付けさせたい。
		・身だしなみチェック(月1回)を行い、常に清潔感のある身だしなみを心掛けさせる。	B	・全体的には乱れた様子はないが、数名の生徒が身だしなみに関して無頓着な様子である。	・常に清潔感にあふれ、いつでも面接を受験できるように、各自に身だしなみに関しての意識を高く持たせるように声掛けをし続ける。
	生徒会活動の活性化	・リーダー研修会の事前指導を徹底し、充実した研修会にし、リーダーの育成を図る。	B	・研修会の実施が少ないこともあって、なかなかリーダーの育成ができていない現状である。	・各行事を通して、リーダーの育成に努めながら、研修会や地域の行事などにも積極的に参加をし、充実させていきたい。
・生徒会を中心とする学校行事の企画・運営の活性化を図る。		A	・生徒会が中心となって各行事を運営し、楽しく活動ができた。	・今後は本校分校連携にも力を入れ、地域との関わりに目を向けていきたい。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
生徒指導	交通安全指導の充実	・自転車・原付バイクの交通マナー向上のための講習会を開催し、自転車・原付バイクの交通事故・違反0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	B	・登校中に原付通学生が自損事故を起こした。同じく登校中に自転車と歩行者がぶつかる事故があった。	・事故を起こした原因を探り、臨時の集会や講習会などで注意し、事故がないように努める。今後も交通委員会を通して交通安全意識の高揚に努めさせる。
		・登下校の自転車用ヘルメット着用率100%を目指す。 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	B	・ヘルメットの着用については、学校までの登下校時には100%であるが、最寄りの駅までやプライベートでの着用では低い可能性がある。	・時間に余裕を持って登校させ、自ら率先してヘルメットを着用させることができるよう、安全意識の高揚を図り、交通マナーを向上させる活動をしていきたい。
		・教職員・係生徒による街頭指導(月1回)を実施する。	B	・交通委員が中心となって教員と共に街頭指導を行った。テスト発表中には実施できない時があった。	・行事に重ならないような計画を立て、今後も継続して指導を行い、事故0の学校をつかっていきたい。
	部活動の充実	・部活動と勉学との両立を図り、主体的に考え、活動する生徒を育成する。 ・県総体出場60名、県高文祭参加40名を目指す。 [運動部] A:60名以上 B:50~59名 C:40~49名 D:30~39名 E:30名未満 [文化部] A:40名以上 B:30~39名 C:20~29名 D:10~19名 E:10名未満	A	・県総体出場者96名、高文祭参加者38名と、各部活動が健闘し、ライフル射撃部が全国大会、陸上競技部がインターハイ・国体・U18の全国大会に出場し、郷土芸能部が来年度の全国大会出場を決めた。	・今後も文武両道を目指し、各々が活動内容を工夫しながら、活気のある活動ができるよう努めたい。
ボランティア活動	ボランティア活動の充実	・奉仕活動やボランティア活動に自主的に参加し、積極的に取り組む姿勢を育成する。	A	・全校生徒によるクリーン愛媛運動の予定であったが、天候の関係で、校内の美化運動に全校で取り組んだ。 ・部活動や個人、委員会単位で、地域の催しに参加をした。	・天候に左右されるが、さらに校内外の美化に努め、部活動単位や個人・委員会単位で積極的に地域の催しに参加させる。この活動をSNSなどを有効に使い、上手に情報を発信させる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	進学指導の充実	・授業を中核に、補習や個別指導を通して学力の向上を図る。	B	・全教職員で、補習や個別指導、特に小論文や面接指導を行うことができた。	・個別指導や小論文・面接における全教職員による指導を継続していく。今後更に資料の充実を図りたい。
		・第一志望校への合格率100%を目指す。 A:100% B:90~99% C:70~89% D:60~69% E:60%未満	B	・松山大学7名を含む大学27名の合格者を出すことができた。短期大学、専門学校についてもほぼ希望どおりの進路実現ができた。	・第一志望校合格率100%を目指し、早い段階から進学への意識を向上させ、指導の充実を図っていききたい。
		・ICTを活用し、多角的に学習をサポートしてくれるClassiを利用した自学自習の支援や進学指導の充実を図る。	B	・課題配信以外にも、模試と連携した学習法の紹介や進路先についての研究を促した。	・生徒・教職員に対し、各種機能の活用方法について周知徹底を行い、今後も積極的な活用を努めていきたい。
	就職指導の充実	・就職内定率100%を目指す。 A:100% B:90~99% C:70~89% D:60~69% E:60%未満	A	・一般企業就職希望者については、全員が第一希望の企業に内定した。 ・公務員希望者は、対策講座に参加するなどして合格することができた。	・企業に関する情報提供を積極的に行い、早い段階での希望職種決定を促していく。公務員希望者にも指導を強化したい。
		・授業を中核に、各種検定の資格取得等を通して、学力と技能の向上を図る。	A	・資格取得に努めさせ、商業科の協力のもと検定合格に向けた補習も実施できた。	・資格取得推進を継続するとともに、公務員希望者に対応した基礎学力の定着・向上を図っていききたい。
	キャリア教育の充実	・職場見学・企業説明会等を通して望ましい職業・勤労観を身に付けさせ、自分らしい生き方の実現に向けて必要な能力や態度を育成する。	A	・1年生、2年生ともに職業体験は実施することができた。地元企業説明会には、3年生だけでなく2年生も参加して実施することができた。	・職業体験・対外的活動の実施方法についての再検討やICT機器の活用を行い、キャリア教育の充実に努めていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
人権・同和教育	いじめ対策	・いじめの早期発見、早期対応に努め、いじめが起きにくい、いじめを許さない学校づくりを目指す。	B	・校内いじめアンケート調査を各学期に実施することで、いじめ発生の抑止力になっている。事例に対して、担任や学年主任が迅速に対応できている。	・アンケート結果だけでなく、生徒の心身の変化に十分に気を配り、学年団を中心に組織だった迅速な対応をしていきたい。
		・生徒から相談できる教員75%以上を目指す。 A:75%以上 B:60~75% C:50~59% D:40~49% E:40%未満	B	・生徒が各教員に気軽に話しかけられる雰囲気があり、良好な人間関係が随所に見られた。面談場所も工夫できていた。	・教職員間で共有すべき内容については、各担当者から素早く情報が伝わるようにしたい。
		・人権・同和教育課と生徒課が協働して、いじめ未然防止に努める。	A	・人権・同和教育課と生徒課が連携することで、いじめを未然に防止することができた。	・スマホ安全教室やいじめ問題など、生徒課と協力して今後も実施していきたい。
	教職員研修と人権・同和教育活動の充実	・人権委員会誌「てのひら」を毎月1回発行し、生徒や保護者に人権に関する情報と本校の活動内容を発信し、人権問題について話し合う機会をつくる。	C	・生徒の意見や行事の感想を多く掲載するなど、生徒人権委員の自主性を育てることはできた。 ・家庭に「てのひら」を持ち帰らせ、情報を共有することがあまりできなかったようである。	・時事的な問題を取り上げたり、保護者の書いた記事や感想を紹介するなどの工夫を積み重ねていきたい。 ・生徒に対しても、家庭で活用することを指導していきたい。
		・人権委員会誌「てのひら」を活用し、教職員の知識・理解の向上を図る。	B	・生徒に「てのひら」を配布する際に、人権の日にに関するコメント等を事前に準備する中で、教員の知識を広げるきっかけとなった。	・新しい用語が増えてきているが、最近取り上げられる性的マイノリティやヤングケアラーの問題などにも的確に指導できるように情報を提供したい。
		・校外の人権・同和教育活動や研修会参加率80%以上を目指す。 A:80%以上 B:60~79% C:50~59% D:40~49% E:40%未満	A	・研修会に参加した教員・保護者の全員が感想を提出し、今後の本校の取組に生かす研修となった。	・積極的な参加を促すとともに、研修会の内容を「人権かわら版」で紹介して周知していきたい。
※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。					

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
研修	校外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会や学校訪問研修等への参加の啓発をし、校外研修会の成果を報告する校内研修会を設け、情報の共有を図り、教職員の資質と指導力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や他校の学校訪問で習得した内容を、教科会において現況や最新の情報を共有して教育活動に生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修等の情報を速やかに校内研修会で伝え、多くの教職員が研修に参加できるように積極的に啓発していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 教科内研修や研究授業・相互授業参観週間(年2回)等を実施し、幅広い見識を身に付ける研さんのきっかけとすることで、個々の資質と専門領域以外の領域を踏まえた指導力の向上を図る。 <p>[相互授業参観]</p> <p>A:100% B:95~99% C:80~94% D:75~79% E:75%未満</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職経験の少ない若手教員は経験豊富な先輩教員から適切なアドバイスを受け授業の改善に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用や他教科の特徴を学ぶ機会を設け、個々の授業形態の改革を図るきっかけづくりをし、教員の指導力の維持や向上を継続的に取り組みたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による生徒指導、人権・同和教育、教育相談、特別支援教育等に関する研修会を実施し、教職員の資質と指導力の向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 非行防止教室、平和学習被爆体験講和、手話講座(6回)、命の授業、特別支援教育の研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各課、学年と連携しながら研修会の年間計画を全教職員に提示し、研修体制の構築に向けて実践的な研修となるように実施していきたい。
図書館教育	図書館活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 教材センター・学習センターとしての機能を持つ図書室として、環境の整備に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員のほかに美術部生徒に購入図書の希望を聞くなど、図書の購入方法を一部工夫した。授業において3年生「国語表現」で図書委員のポップを参考に、ポップ作りに挑戦し、それらを図書館に本と一緒に展示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門性を大切にすると同時に生徒の実態に合った図書を選ぶことで、教材センター・学習センターとしての役割を充実させていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「朝読書」の徹底や図書委員の積極的な取組によって読書欲を喚起する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全クラス落ち着いた雰囲気朝読書を実施できている。図書委員作成のお薦めする本のポップを見て本を借りる生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書習慣を身に付けるためには、現行の朝読書の回数(週1回)を見直すことにした。
		<ul style="list-style-type: none"> 年間図書貸出数一人あたり5冊以上を目指す。 <p>A:5.0冊以上 B:3.6~4.9冊 C:2.0~3.5冊 D:1.5~1.9冊 E:1.5冊未満</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間図書貸出数は、一人当たり5.1冊であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べて0.7冊減ったことは図書室の魅力を発信する取組が不十分であったことを示している。図書室に足を運ばせるきっかけづくりを新たに見出していきたい。
<p>※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。</p>					

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
情報管理	個人情報の保護	・セキュリティ対策の研修会を実施し、個人情報の漏えいを防止する。	B	・4月当初と7月にセキュリティ研修を実施した。現在までセキュリティ関連のトラブルはない。	・来年度以降も、セキュリティ対策に力を入れていきたい。
		・ホームページの情報発信では細心の注意を払い、必ずダブルチェックを行う。	B	・ホームページの情報発信前に担当者と教頭の二人でダブルチェックをすることができた。	・来年度以降も、ホームページでの情報発信はダブルチェックで実施していきたい。
	適切な情報発信	・開校日はホームページを毎日更新する。 A:毎日 B:週4日 C:週3日 D:週2日 E:週1日	A	・開校日は、名簿順に担当者を決めて、毎日ホームページを更新することができた。	・来年度は、長期休暇中のホームページの更新をどのような形で実施するか検討したい。
保健管理	健康管理の向上	・健康観察や学校生活を通して生徒の健康状態を確認する。	A	・出欠状況等を踏まえて、関係職員と情報共有をしたり、生徒の保健室利用時に話をよく聞いたりすることができた。	・関係職員との情報共有、必要に応じて生徒から話をよく聞くことを行い、引き続き健康状態の把握に努めたい。
		・手洗い・うがいや換気など感染症予防のための行動を継続し、安心・安全な学校環境を整える。	B	・感染症予防について啓発活動を保健だよりや生徒保健委員会活動で行った。 ・安全点検を通して危険箇所等の確認を行うことができた。	・感染症については季節に関係なく流行が見られるので、引き続き基本的な予防対策を積極的に行いたい。
教育相談	教育相談の充実	・健康観察などから生徒の心身の状態をよく観察し、組織で支援の充実を図る。	A	・保健室等で気になる様子が見られた場合は、速やかに関係職員と情報共有をし、組織的な対応を図った。	・少しでも気になる様子があれば、積極的に情報共有をし、組織で継続した支援を行いたい。
		・学年会等を通して、生徒理解に努め、スクールライフアドバイザーの協力も得ながら組織で早急に対応する。	B	・まず学年で、さらに必要に応じて職員全体で、生徒の情報を共有し、共通理解につなげられた。	・関係者と連絡を図り、生徒理解だけにとどまらず、専門家の活用等を検討したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学年	〈1学年〉 基本的生活習慣の確立・維持	・相互に協力して生徒理解に努め、心身ともに健やかでかつ自律した生徒を育成する。	B	・教員間で生徒情報の共有に心掛けたため、一人一人の個性を理解しながら、健やかで自律した生徒の育成を実践できた。	・引き続き生徒理解を深めながら、基本的生活習慣をきちんと身に付けさせ、心身共に健やかで自律した生徒の育成に努めたい。
	〈2学年〉 進路目標の明確化を図り、その実現のために主体的に取り組ませる	・学校生活に主体的かつ対話的に取り組ませ、生徒同士が相互に尊重し合える態度を養う。	B	・昨年度実施できなかったインターンシップや修学旅行に主体的に取り組むことを通して、生徒同士の関係が深まり、相互に尊重し合う態度が養われた。	・生徒同士が、互いを尊重しつつ、主体的に活動できるような指導を継続的にやりたい。 ・生徒の主体性に重点を置いた進路実現に向けて、きめ細やかな指導に努めたい。
	〈3学年〉 進路指導の充実	・自らの進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成する。社会の一員として、自覚と責任そして心の成長を促す。	A	・進路課と連携し、適切な進路指導ができた。各生徒に細かく担当が寄り添いながら、生徒が主体的に進路実現を達成できた。	・卒業後も各生徒が、次のステージで活躍できるよう、高校としてできる限りのフォローをしていきたい。
国際理解	内子からUCHIKOへ—インバウンド再生元年の挑戦—	・内子町は愛媛県内でも有数の伝統的文化資源を有しており、外国人観光客をターゲットとした土産・ワークショップの企画開発に取り組む。	A	・内子座に關係する商品開発及びワークショップの実施を行い、内子町役場や地域事業所と連携して地域課題の解決に向けた取組ができた。	・来年度も、地域の課題を地域と共に解決する活動を継続したい。
業務改善	適切な勤務時間	・勤務時間を意識して業務を行い、効率化を図る。	B	・会議の回数(経営委員会)を減らした。また、全教職員が勤務時間を意識して業務に臨むことができた。	・引き続き業務の効率化を図るとともに質の高い教育活動ができるように共通認識を図って意識を高めていきたい。
		・毎月の80時間超時間外勤務職員数0を目指す。 A:0名 B:1~2名 C:3~5名 D:6~8名 E:9名以上	C	・4月~12月において、80時間超時間外勤務をした職員数は1か月平均4.2名(昨年度3.8名)であった。同期間で、80時間超時間外勤務に1か月でも該当した職員は11名(昨年度14名)、3か月以上の職員は7名(昨年度5名)であった。(全職員数36名) ・80時間超時間外勤務職員数は月によって差があり、大幅に少ない月と多い月があった。	・時間外勤務時間の長い職員には、管理職から声を掛け、健康状態や過重業務になっていないかなどを聞き取ることを継続したい。 ・定期的に学校医(健康管理医)と情報共有をしているが、場合によっては受診をする(勤める)など対応していきたい。 ・業務内容を見直し、超過勤務を削減するよう検討する。
	職場環境の整備	・教職員の疲労や心理的な負担の軽減を図るとともに、円滑なコミュニケーションの促進によって風通しのよい職場づくりを行う。	A	・気になることが生じた場合は、観察だけでなく声を掛けたり話を聞いたりし、養護担当の教員と連携をして職員の健康状況を把握した。不調の際には休暇を取得しやすい職場の雰囲気醸成できた。 ・学校のためになる提案は教職員に図った上でできるだけ採り入れ、教育活動の改善を図るとともに職員の働きがいの向上につなげることができた。	・今後も、互いを認め尊重し合える雰囲気維持に努める。課や学年団のつながりを強め、個人の小さな変化に気付くようにするとともに、気軽に学び合いや助け合いができる職場づくりを推進していきたい。 ・教職員一人一人が教育活動を主体的に捉え、よりよい活動の提案ができるような雰囲気を高めていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。